

1 市PTA協議会との意見交換より

運動部や文化部に限らず最近の子どもたちに必要なのは、リアルな体験、探究的な活動であり、学校から外へ出て自分で考え行動するという姿勢を培うことだろう。そのようなことが可能な部活動の種目も実現できればいいのではないか。(PTA協議会役員)

学校選択制により部活動ができる学校を希望する家庭もあり、学校間格差につながっている。他校の部活動へ自由に参加できるようになれば有り難い。(PTA協議会役員)

2 本市教職員対象の市教育フォーラムでの動画配信より

N

どうなるの? 「部活動」

～生徒にとって望ましい部活動について考えてみませんか～

部活動は、学校教育がめざす子どもの資質・能力の育成に資するものとして教育の一環として取り組まれており、生徒指導、学校運営においても非常に大きな役割を担っています。しかし、一方で部活動をめぐる様々な課題が提起され、国から部活動の地域移行が打ち出されました。

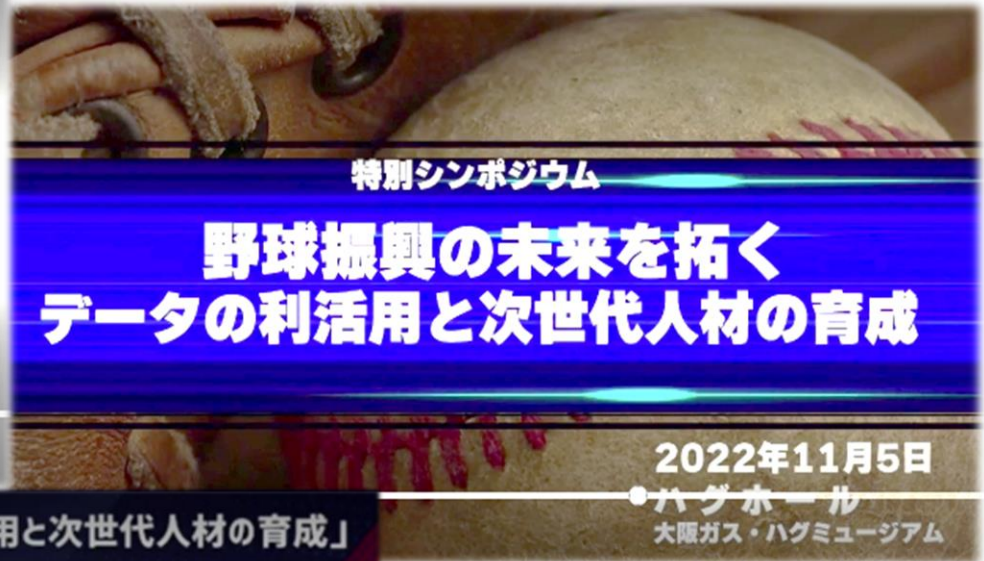
本動画では、国の動向や本市が生徒にとって望ましい部活動について検討している内容を、アンケート結果や有識者のコメント等も交えて紹介しています。

部活動の未来について一緒に考えてみませんか。皆さんのコメント、お待ちしております。

<担当者> 指導部 保健体育担当 指導主事 廣山 真由美

どうなるの？「部活動」

- 1 部活動の「これまで」
- 2 部活動の「実態」
- 3 部活動の「これから」



事業アーカイブ 「野球振興の未来を拓くデータの利活用と次世代人材の育成」

第1次提言公表後の動き

- ▶ 全国10カ所で、「未来のフカツ」フィージビリティスタディ事業（FS事業）を実施。「学校部活動の地域移行の受け皿として採算の合う事業体の運営は、どんな条件が揃えば可能になるか」について、新しいクラブの設立と運営の可能性を考える事業者や自治体・学校や保護者などが主体となり、「関係者間でひたすら話し合い、合意形成を目指すこと」を主な目的とした。
- ▶ 「未来のフカツ」ビジョンは、FS事業における関係者間の対話を総括し、「学校部活動の地域移行」という政策を自己目的化することなく、U15/U18世代のスポーツ環境が抱える課題の解決に向けて、スポーツの社会システム全体の再デザインを提言するもの。

部活 選手・コーチ・学生・教員・保護者・関係者・自治体・学校・保護者などが主体となり、「関係者間でひたすら話し合い、合意形成を目指すこと」を主な目的とした。

フカツ 様々な運営主体が提供する地域のスポーツクラブ活動とし、従来の学校部活動は異なる多様性に富んだ姿のイメージ

「未来のフカツ」FS事業



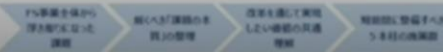
<主な検証内容>

- ✓ 採算の合う事業運営は可能か？
- ✓ 公費以外の収益確保の方法は？
- ✓ 受益者負担の程度は？
- ✓ 指導者の質や量の確保は？
- ✓ 場所の確保は？
- ✓ 関係者間の合意形成はどのようか？

「未来のフカツ」ビジョン（2022年9月）

学校部活動の地域移行 **?** U15/U18世代の望ましいスポーツ環境実現

- ✓ 「学校部活動の地域移行」という政策の自己目的化することなく、U15/U18世代のスポーツ環境の再構築を中心に、生涯スポーツ環境としての「未来のフカツ」の社会システムを構築。



大阪商工会議所と日本野球連盟の共催によるシンポジウム動画の使用を許可いただき、フォーラム動画で一部紹介するとともに、リンクを貼らせていただきました。